

研修参加報告書

令和4年1月30日

会派名 日本共産党江南市議員団
会派代表者 掛布 まち子
(参加者：三輪陽子)

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

①

年月日	令和4年1月24日(月)
研修時間	13:15~16:35
研修場所	全国市町村国際文化研修所(滋賀県大津市)(オンライン)
研修内容	(1) ヤングケアラー ~介護を担う子どもたち~ (2) いま、見つめなおす「ひきこもり」 ~ひきこもり白書2021から見えてきたこと~

②

年月日	令和4年1月25日(火)
研修時間	9:00~12:20
研修場所	全国市町村国際文化研修所(滋賀県大津市)(オンライン)
研修内容	(1) こども食堂と私たちの地域・社会 (2) コロナに負けない! 健幸都市(ウォークブルシティ)の まちづくり

研修参加報告書

①

年月日	令和 4 年 1 月 24 日 (月)
研修時間	13 : 15 ~ 16 : 35
研修場所	全国市町村国際文化研修所 (滋賀県大津市) (オンライン)
研修内容	(1) ヤングケアラー ~介護を担う子どもたち~ (2) いま、見つめなおす「ひきこもり」 ~ひきこもり白書 2021 から見えてきたこと~
■目的 ヤングケアラーとひきこもりについてその実態について知り、対策事例を参考に して、行政などでできることを考察する。	
■内容 (1) ヤングケアラー ~介護を担う子どもたち~ 成蹊大学文学部 現代社会学科 教授 澁谷 智子氏 ・厚生労働省によるはじめての全国的な調査で、中学2年生で5.7%、高校2年生で4.1%ヤングケアラーがいることがわかった。 ・この背景に共働きの増加や高齢化など家族構成の変化がある。 ・イギリスでは1995年ごろから実態調査や取組が始まっている。 ・イギリスではヤングケアラー支援のための法律ができていて、活動も行われている。 ・ヤングケアラーは子どもの権利が守られていない状況である。 ・ケアする子どもの立場にたって話を聞いたり、相談にのったりできる専門職が必要である。 (2) いま、見つめなおす「ひきこもり」~引きこもり白書 2021 から見えてきたこと~ 一般社団法人ひきこもり UX 会議 代表理事 林 恭子氏 ・ひきこもり白書や当事者 (講演された理事) の声をまずしっかり聴いてほしい。 ・社会復帰ありきではなく、まず安心していられる居場所づくりが大切である。 ・UX 会議が主催している「ひきこもり女子会」が各地で効果をあげている。 ・近年高齢化しているひきこもり当事者には行政、民間はじめあらゆる地域の関係者が連携して地域で当事者が生きていける仕組みづくりが必要である。	
■所感 まだあまり一般的には認知されていないヤングケアラーの問題であるが、今後深刻化する懸念もあり、まず地域における実態調査をすすめ、自治体としてもできる支援を考える必要があることがわかりました。 ひきこもりについてもそれぞれひきこもりになる理由も様々で、まず当事者や家族の話を聞いたり、相談にのったりできる場所や居心地が良いと感じられる場所をつくり、気長に続ける支援が大切であることがわかりました。「引きこもり女子会」などできそうなところの取組を考えたいです。	

研修参加報告書

②

年月日	令和 4 年 1 月 25 日 (火)
研修時間	9 : 0 0 ~ 1 2 : 2 0
研修場所	全国市町村国際文化研修所 (滋賀県大津市) (オンライン)
研修内容	(1) こども食堂と私たちの地域・社会 (2) コロナに負けない！健幸都市 (ウォークアブルシティ) のまちづくり
■目的 全国に広がっているこども食堂の実態を知り、地域社会での役割を考察する。 コロナ禍にあっても住民が健康で幸福に過ごせるまちづくりについて学び、今後のまちづくりに生かすことを考察する。	
■内容 (1) こども食堂と私たちの地域・社会 東京大学先端科学技術研究センター 特任教授 湯浅 誠氏 ・こども食堂は子どもの貧困対策、子育て支援をも含む地域づくりである。 ・こども食堂の価値は地域資源を生かした多世代の交流にある。 ・コロナ禍でもフードパントリー (食材・弁当配布) などを組み合わせ持続可能。 ・こども食堂が当たり前にあるまちづくりが地域の活性化につながる。 ・こども食堂の運営が地域の高齢者の生きがいづくりにもなっている。 (2) コロナに負けない！健幸都市 (ウォークアブルシティ) のまちづくり 筑波大学 人間総合科学学術院 教授 久野 譜也氏 ・コロナ禍の外出自粛により健康二次被害が起こっている。 ・フレイルや鬱の増加で自殺者も増えている。特に高齢者は足腰が弱り、認知症が増えている。 ・自治体では感染症対策をしたうえで健康に対する対策がとられているか見直す必要がある。 ・健幸政策として公共交通整備も重要。 ・ドイツのフライブルク、フランスのナントでは車を減らし、公共交通の整備をして健幸で活気のあるまちづくりに成功している。 ・便利さだけを追求せず、歩いて暮らせるまちづくりへ市民、行政の意識を変える事が必要。	
■所感 江南市にもあるこども食堂をまず見学し、市内に増やせる方法を考えてみたいと思いました。 コロナ禍での健康二次被害は深刻です。感染対策をした健康教室など続けていける方法を提案したいと思います。 公共交通の整備は高齢者だけの問題ではなく、市民全体の健幸づくりにも重要ということがわかりましたので、江南市でも公共交通の整備を早急にできるよう活動していきます。	